

## 04

### 第4の旅

## 高天原(たかまのはら)はどこにある？

神さまの住まうところが高天原！ それはどこにあったのだろう

### ■ 4-1 高天原は天の浮橋と繋がっていた。

高天原は正しくは「たかまのはら」とよむそうだ。日本の国土を生みだした神さまたちがお住まいになっていた場所である。天照大神が岩屋の中に隠れ、世の中は真っ暗になった。そして新たに復活した時にすばらしい光が差してきた。私の高天原のイメージはそんな感じだった。

古事記にはその立派な高天原は「天(あめ)の浮橋」で地上と繋がっていると書いている。高天原の歴史が始まったころ、地上は「混沌(こんとん)」の状態であった。混沌というのは具体的には説明がつかないような状態だが、あえて言えば太陽や木星などの表面の状態、ドロドロに溶けた液体か気体か分からず、上下左右はまったくない状態と想像している。もしかすると原始地球も最初は陸も海も空も区別のつかないような「混沌」だった。のちに神話を書いた地上の人たちはDNAに刻まれた混沌の記憶を持っていたのかもしれない。おっと！地球が混沌状態だった時には、生命はおろか時間さえなかったのだからDNAもあるはずもないなあ。

神話の話を「いつ？」「どこ？」などと質問すること自体が無意味だと言われる。あるいは戦前のように「高天原は天皇の祖先の神さまの居られた貴い場所で、どこか？など考えることは不遜である」との風潮もあった。

神話＝歴史

戦前の教育で「古事記」は歴史書とされていた。その結果は日本の歴史は紀元前660年の神武天皇の即位で始まったとされ、西暦ではなく皇紀が使われた。昭和15年は皇紀2600年。末尾がゼロゼロ年だったので「零戦」という戦闘機が作られた。カレンダーの建国記念日2月11日も神武天皇の即位した日を記念したもので戦前は「紀元節」と言った。

本心では「本当かな？」と思った人も多かったが、第二次大戦が終わって昭和天皇が人間宣言をされるまでは、公には天皇が神さまであることを疑うことはできなかった。

天皇さまの人間宣言によって、日本建国がキリスト誕生の660年も前のことだと信じる人もいなくなった。古事記は封印され、皇紀もカレンダーから消えた。と言ってから気がついたが、最近「皇紀」復活の兆しもあるようで、わが家のカレンダーも皇紀が載っているなあ。ゆえなく封印された古事記はもう完全復活しており、2013年は「古事記1300年！」と称して多くのイベントも開催されている。



<私の高天原のイメージ 真名井の滝の先に天の安河原が広がる>

江戸時代の大学者である新井白石は「高天原とは常陸の国の多可郡である」と言ったそうだ。多可の音が高天原に通じるというのが根拠である。大学者でもけっこうたわいもないことを根拠にしている。

私だっているいろいろ歩いてみれば何か発見があるかもしれない。犬も歩けば棒に当たる。……ウロウロしていると棒で殴られるというのが本当の意味らしいが、ウロウロしてみれば、何かいいことに会うという意味の方の方が私は好みだ。高天原と称されるところをいくつかウロウロと歩いて、幸運の棒を見つけようと試みた。

## ■ 4-2 高天原の神さまで一番偉いのは??

古事記にはたくさんの神さまが出てきて、その名前をみるだけで、なんだか分からなくなる。しかしほとんどの神はすぐに消えてしまうので、イザナギ、イザナミのご夫婦神と最高神である天照大神とその弟スサノオの名前さえ覚えておけば大丈夫。

高天原に最初に現れる神さまは、天の御中主(あめのみなかぬし)というが、あらわれてすぐに消えてしまう神だ。

さらにそれに続く七代の神も同じで、あらわれてすぐに消える。何の役割もしていない。混沌の中にあらわれた「あぶく」みたいなものだ。

次にはご夫婦神が七組あらわれて、ただ消える。その神様たちが子孫を残したということもなく、ただ消えて行く。しかし初期の独神(ひとりがみ)ではなく、ご夫婦神というところがちょっと進化している。



#### ◆あぶくみみたいな神さま・・・宇宙開闢をあらわしている

古事記の中で、それらの神は最初に一回名前が出るだけであとはまったくでてこない。あぶくみみたいな神に何か深い意味があるのだろうか。

私は、影も形もなく、時間さえなかったという宇宙開闢の状態を表しているのではないかと、感激的に見ている。古事記を書いた人は、「宇宙開闢は混沌だった！」ということを感じていたのだろう。「古事記」は相当に科学的、哲学的な本だ。現在の宇宙開闢イメージをこれほど明確に残っているのは、アフリカサハラ砂漠に暮らすドゴン族の神話と並ぶ壮大な遺産だ。ドゴン族の神話は口承だが、古事記は口承をきちんと記述している。これは世界に誇る大変な書物だ。

#### ◆ イザナミ・イザナギご夫婦の国生み

このご夫婦が日本国土や神さま、人々を次々と生んでいく。生み出された「豊葦原(とよあしはら)瑞穂の国」は急速に拡大し、出雲や吉備、大和など後に名がつく国々が誕生していた。今で言う日本国のすべてのもとは、国生みの二柱の神さま、イザナギ・イザナミご夫婦のおかげなのだ。ゆめゆめおろそかにしてはならない。しかし現在これらの神さまを祀る神社の数は、八幡宮や天照大神、大国主命を祀る神社に比べて少ない。なぜなのだろうか？

### ■ 4-3 オノゴロ島 最初に生みだされた島はどこに！

イザナギ・イザナミの神さまは高天原から「天の浮橋」に立って混沌状態の地上を見おろした。二柱は協力して「天の沼矛(ぬぼこ)」で混沌をかき回す。混沌の中から海ができ、沼矛を引き上げた時にしたり落ちた塩が重なり、それが島になった。最初にできたのがオノゴロ島で、淡路島がそれにあたると言われてきた。淡路の一宮はイザナギ神社で、イザナギ・イザナミのご夫婦を祀っている。

そのオノゴロ島で女神のイザナミは

「吾が身は成り成りて、成り合わざる処一処あり」

と言う。イザナギは答えて

「吾が身は成り成りて、成り余れる処一処あり。成り余れる処を成り合わざる処に刺し塞ぎて国土生み成さん」

と言った。イザナミは

「それがいいわ」と言って「天の御柱(おんばしら)」を回った。

御柱をまわって二柱が出会ったときに女神のイザナミは

「まあなんていい男なの」と言い、結婚した。

しかし生れた「淡島」は不出来だった。高天原の神に尋ねると、うまくいかないのは女神が先の声をかけたからだ、という。そこでやり直して、イザナギの方から声をかけたら、今度はうまくいき、「大八洲(おおやしま)」が生まれた。女が先に男に声をかけてはいけないのだ！、この神話が作られた頃にもそんな風潮があったのか？

生れた「大八洲」は古事記では本州、四国、九州、淡路、壱岐、対馬、隠岐、佐渡の 8 つである。北海道や琉球列島は入っていない。「日本書紀」では沢山の島という意味で使っている。八つつでなくてもいいということだ。

私はここ数年三輪神社巡りと並行して全国一宮巡りもやっている。淡路の一宮にももちろん行った。最近淡路島は「オノゴロアイランド」として売り出している。しかしその場所に立ってみると、

オノゴロ島＝淡路島

はちよつとなあ！の感じがした。混沌の中からはまず最初に生まれた島だという強烈なパワーがあまり感じられないのだ。私は淡路島の南端の先にある小さな「沼島」(ぬしま)に目を付けた。沼島という字が沼矛(ぬぼこ)に通じる。



#### ◆ 中央構造線パワー

地質図を見るとこの島と淡路本島の間は狭い水路だが、この地下に日本で最大の断層である「中央構造線」が走っており、沼島と淡路島はまったく違った地層を持っている。フェリーの港の裏には白っぽい花崗岩質の砂利山があった。ほんの十数分で海を渡るとそこは伊予の青石(結晶片岩)からなる沼島だった。これだけはっきり岩石が変化するのが見られる場所は珍しい。

構造線というのは大断層が連続している場所で、地殻のエネルギーが満ち満ちている。そのパワーは何らかの方法で感じることはできる。「中央構造線」の延長上にある静岡県の分杭峠(ぶんぐいとうげ)、青崩峠は日本で一番強い「パワースポット」として認定されており、最近は大ブームでツアーでパワーを得るために大勢が訪れている。私は地質調査で何回も訪れていたが、当時は信心が足りず、パワーを得るところまで行かなかった。

謎が多い諏訪神社は本州の中央である諏訪湖のほとりに 4 社ある。その諏訪湖は中央構造線と糸魚川静岡構造線がぶつかってできた湖である。糸魚川静岡構造線はフォッサマグナの西縁を区切る落差 2000m 以上もある大断層帯だ。これら構造線は活断層の集まりなのでしばしば活動する。2014 年 11 月におこった「神城地震」は糸魚川静岡構造線の一部である神城断層がほんのちよつと身ぶるいしただけだ。その

すぐ前に噴火した木曾の御嶽山も中央構造線のすぐ近くにある。あの火山爆発は、規模は小さい噴火だったが大勢の人の命が奪われた。構造線の近くには強烈なパワーが存在しているのだ。下手に触ると取り返しがつかなくなる自然の脅威と言っている。リニア新幹線工事でこの二つの大断層を横断するトンネルを掘るそうだが、とんでもないことだ。自然のパワーを甘く見てはいけないのは、3.11災害で十分経験済みだろうに。

私はこの「沼島」にもおなじような強力な構造線パワーを感じた。この島にはイザナギ、イザナミご夫婦神が回って結婚した「天の御柱」もある。当然この島にもイザナギ、イザナミを祀る神社があった。私としては

オノゴロ島＝沼島（オノゴロ島≠淡路島）

の説に軍配をあげたい。

この近くに天の浮橋があり、その上の方に高天原があるはずだ。とりあえず、沼島で高天原の入り口は見つけた。さらに橋を上っていきたいのだが、肝心の浮橋はなかなか見つからない。



ちょっと離れてしまうが、天橋立が天の浮橋と見立てられたこともある。天橋立が有名観光地なのは、景色が珍しいというだけではなく、この橋立が天に通じているからとされていたことも関係している。実際に傘松公園で股のぞきを試みると、橋立は天に伸びているように見える。

天の浮橋＝天橋立

しかし沼島からはちょっと離れているなあ。でも天の橋立の近くには、浦島太郎の伝説、海神系の籠(この)神社、元伊勢の大江山など、神話に関係ありそうなもろもろがある。これらの関連と私の直感から上の説を採用したい気持ちだ。

#### ■ 4-4 みそぎ 三貴神がうまれた！

イザナギ、イザナミのご夫婦は大八州を生んだ後、吉備の児島などさらに多くの島々も生み、多くの神さまも生む。そして最後に奥さんのイザナミは火の神「カグツチ」を生むが、その火によって大やけどをして亡くなった。そして黄泉の国に隠れてしまう。

夫のイザナギはなくなった妻を追いかけて、黄泉の国に行く。

「愛しい妻よ、二人で造った国はまだ完成していない。帰っておくれ」

と懇願する。

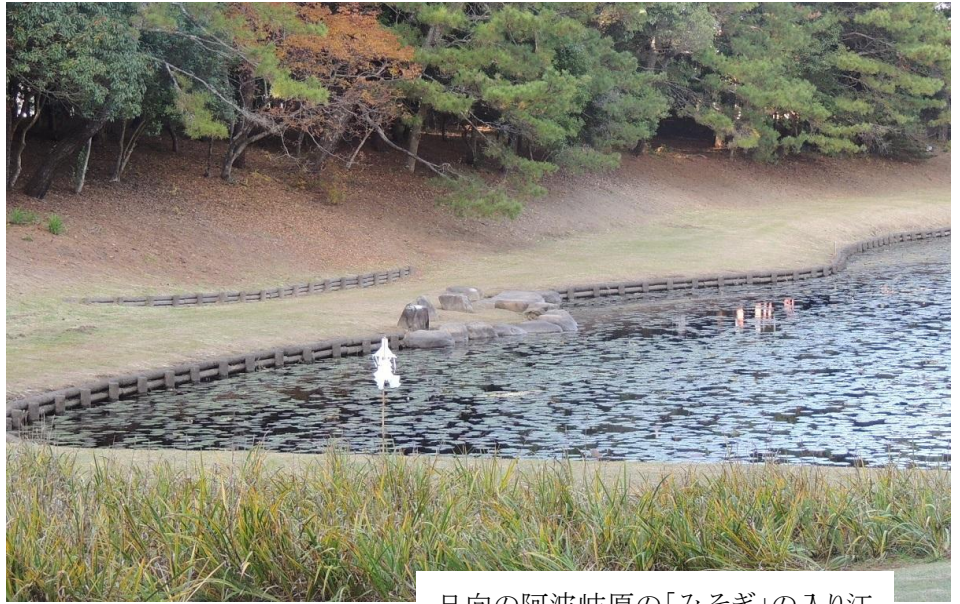
この話は第2旅の「黄泉津比良坂」の項で詳しく述べた。

妻のおそろしい姿を見たイザナギは黄泉津比良坂を通過して地上に逃げ帰った。

「まあひどく穢れた所に行ってしまった。禊(みそぎ)を体をきれいにしよう！」

と、筑紫の日向の橘の水門(みなと)の阿波岐原(あわぎはら)の海に浸かる。

その「みそぎ」の結果、これこそ日本の最高神である神さまが産まれるのだ。



日向の阿波岐原の「みそぎ」の入り江

- 左目を洗ったときに天照大神(あまてらすおおみかみ)、
- 右目を洗ったときに月読大神(つくよみのおおかみ)が生まれ、
- 鼻を洗った時にスサノオ(すさのおのおおかみ)が生まれた。

この三柱は三貴神と呼ばれる姉弟の関係だ。

イザナギ父さんのみそぎによって生まれた三貴神にはそれぞれ役割があたえられた。

- 天照大神は太陽神として天上界すなわち高天原を治め、
- 月読大神は夜の世界を、
- スサノオには海を治めるように命じられた。

しかしスサノオは父に反抗して毎日泣いてばかりいた。イザナギが尋ねると

「母のいる黄泉の国、根の堅州国へ行きたい」

と答えた。これを聞いたイザナギは

「何でそんなに穢れたところに行きたいのか」

と怒り、スサノオを高天原から追放する。

そして、自分自身も、もう役割を終えたと、近江一宮の多賀大社に引きこもった。

イザナギ夫が「みそぎ」をした場所は天照大神が生まれた大事な神聖な場所である。とうぜんパワーが充満しているはずである。昔の人はパワーがあふれるところに神社をつくった。阿波岐原にはパワーが満ち溢れているはずである。

私はインターネットで「阿波岐原」を検索してみた。宮崎市のシーガイアのそばの砂丘列の間に「あわぎが原」という原っぱがあり、江田神社がある。神社の奥に「みそぎの池」があるという。古事記には「筑紫の日向の阿波岐原」とあるので、宮崎は筑紫ではないのでちょっと躊躇したが、「筑紫は九州全体を表す」という解説を信じて2013年の暮れに訪れて見た。

年金生活者なので、「行ってみたが間違っていた。じゃ筑紫の方に回るか！」というような財力はないので、しっかりと論理を組立てから訪れることにした。

空港から、シーガイアの近くの江田神社はすぐに分かった。ちょっと新しい神社だが、奥の方の砂丘の間に囲まれた池があった。池にはご弊がたち、ここが阿波岐原であるとの石碑もあったが、これはちょっと怪しい。なぜなら強大なパワーが感じられないからだ。イザナギ神は、この場所が入り江で、きれいな海だったところに、海に浸かって、「みそぎ」をしたのだが、ここはちょっと汚すぎる。やはり「筑紫」の日向を探した方がよかったかもしれない。まことに残念だったが、そこから筑紫、福岡に回るのは大変なので、現在まで私の阿波岐原は確定していない。

◆ 沖ノ島がみそぎの地ではないか

宮崎の「みそぎ」の地にはちょっとがっかりした。今、私は文字通り筑紫の日向の阿波岐原は博多沖にある「沖ノ島」と考えた方がよいのでははないかと思っている。海の正倉院と言われる沖ノ島には先史時代からの遺跡が数多く残っており、宝物の島である。無人島だが宗像神社の奥津宮（ヒメ）があり、男の神官が交代でお守りしている。彼らが島に上がるときにはきちんと「みそぎ」をして上陸する。一般人はまったく上陸はできないそうだから、私には確かめようもない。しかし昔から人々は沖ノ島を神の島とあがめ大事にしてきた。私は宗像神社の中津宮までは行ったことがあるが、沖ノ島には行くことはできない。見ないで判断するのは私の主義に反するが、みそぎの入り江は沖ノ島という仮説を立てている。なんとかそこに立って、みそぎパワーを感じてみたい。

◆ 再び宮崎にもどる。

「みそぎ」の地は宮崎ではないとの結論を得たが、阿波岐原からそう遠くない西都原（さいとばる）を訪れて驚いた。この数多い古墳群をみたら、この地にとてつもなく大きな古代帝国があったことは間違いないということがわかる。西都原（さいとばる）遺跡はすごい。大和の古墳群と比べてもそんな色ない、というよりもこちらの方がはるかに大きく



西都原の古墳群

立派で、大帝国を想像できる。阿波岐原ではちょっとがっかりしたが、わざわざ宮崎に来ただけの収穫があった。だれもそんな説を出してはいないが、西都原＝高天原という説も成り立つかもしれない。西都原については後に詳しく述べることにする。

## ■ 4-5 高天原は 宮崎県の高千穂にあった？

阿波岐原の旅はとりあえず終了。その後別の用件で熊本を訪れた。その時に阿蘇火山の外輪山の向こうに高千穂があることを知り、レンタカーを走らせた。私が常に手にしている「古事記」の著者の梅原猛さんが、高千穂こそが「高天原」であると解説しているのだ。

それを確かめるために、四皇子峰のトンネル入口近くの「くしふる神社」に行った。くしふるの漢字はワープロにもないので平仮名にする。ここが天孫であるニニギ命が天から降臨した場所だそうだ。



くしふる神社から 30 分ほど車を走らせると、天の岩戸神社があり、さらにその奥に天の安河原がある。そんなに具体的な場所があるのか、と驚いたが、ともかく行ってみる。

古事記には、天孫のニニギ命は高天原を離れ、天の浮橋から浮島に立ち、「筑紫の日向の高千穂の久士布流多気(くじふるたけ)に天下った」と書かれている。ここ高千穂に高天原があったのなら、ニニギ命は天の岩戸から岩戸川沿いに歩いて、くしふる神社に下ってきたことになる。「あれれ、天の浮橋を通過して降臨してきたのではないの？」

なんかあまり神秘性がない、という感じもするが、でも梅原先生が、ここが高天原だといい、大昔からこの地の人は信じて神社も作っているのだから、まったくの創作でもなさそうだ。この高千穂の山奥から出てきて日本国を支配した天孫系の天皇が、自分の出自を神話にするために壮大に膨らませた話だと考えれば、それでもいいか。

もし本当にここが「くしふる」だったら、後世の人はもっと立派な社殿を造っただろうに、この社はなかなか立派だが、日本国発祥の地としてはちょっとさびしい。

しかし梅原先生がそういうのだから、私も納得する。高千穂の地は神話的には実にいい場所である。

私も含めて観光の客は高千穂神社に参り、歩いて高千穂峡の真名井の滝をみにいく。高千穂神社は高千穂峡に落ちる真名井の滝とセットで神秘性が増している。神社を出て急な谷壁を下っていくと緑色の水をたたえた狭い高千穂峡に出る。橋の下の急な谷壁は阿蘇の溶岩が柱状節理の姿で並んでいる。真っ黒な六角柱の岩とその下の緑の水、そこへ真っ白いしぶきをあげながら真名井滝が落ちてくる。カメラマンの聖地であるかもしれない。この景色を見たら私もこの宮崎県の高千穂付近が高天原だと考えてもいいかと思った。



## ■ 4-6 天の岩戸が開いた！



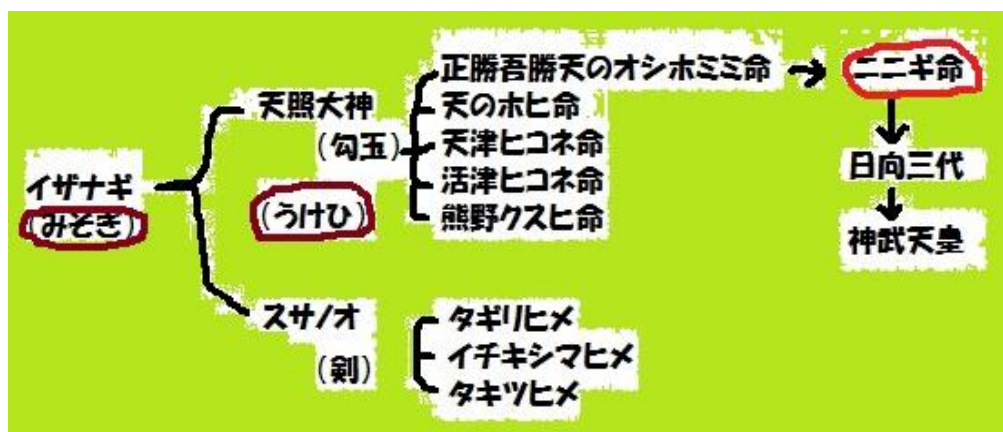
バスで岩戸川をさかのぼると天の岩戸神社にでる。この神社の本殿は天の安河(岩戸川)を挟んだ向こう側にある岩戸である。ここにも磐座信仰が生きている。

天の岩戸神社からさらに遊歩道にそって川をのぼると、大きな洞窟があり、お参りの人が積んだ石が無数にある。まるで賽の河原のようで不気味だが、ここが「天の安河原」で「うけひ」が行われた場所だという。

父神のイザナギによって高天原から追放されることになったスサノオは姉の天照大神に別れの挨拶に行く。しかし天照大神は、スサノオが高天原を奪いに来たと誤解し、武装して彼を迎える。

「それは誤解、私にやましい心はありません」

「それなら、心が清いことを証明しなさい」



「お互いに『うけひ』をして子どもをつくりその結果で判断しよう」

洞窟の前の天の安河原で、天の川を挟んで天照大神とスサノオ神とが「うけひ」を行った。「うけひ」というのは神の意志を問う占いだ、この時は正邪をどう

判断するか決めないままはじめた。

天照大神はスサノオの「十つかの剣」を3つに折って、真名井の水を含んでプツと吹きかけた。そこからタギリ、イチキシマ、タキツの宗像の三女神が生まれた。

次にスサノオは天照大神の勾玉を取って真名井での水で清め噛み砕いて嘔き出すとオシホミら五柱の男神が生まれた。

スサノオは「女の子が生まれたのは、私の心が清く正しいからだ」と勝手に勝利宣言をした。天照大神は何も言わなかったのだから、結果的にはスサノオが勝ったことになった。

#### ■ 4-6 うけひ スサノオは勝ったつもりで大暴れ！

ルールを決めないまま始めた「うけひ」だったから、スサノオは「おれの剣から女神が生まれたのだから、おれは清く正しい」と勝手に自分の勝利を宣言した。

勝利に酔った勢いで天照大神の御殿に糞を撒き散らし、田の畔を壊し、機織り小屋に皮を剥いだ馬を放り込んだりした。恐れ驚いた天照大神は天の岩戸の中に隠れてしまった。天照大神は太陽神だから、高天原もさらに葦原中国もすべて夜になり、闇にまぎれて悪霊が跋扈するようになった。

天照大神が天の岩屋からどうやって出てくるかの話は日本神話のクライマックスだ。昔高千穂神社でカッポ酒をいただきながら、日本神話の夜神楽を見たことを思い出した。地元の人には繰り返し天の岩戸神話を見聞きしてきたのだろう。

天照大神が岩屋に隠れて、世の中は真っ暗になった。困った八百万の神は天の安河に集まって協議をする。日本は神話の時代から民主主義の国だった。思兼神(おもいかね)という賢い神が計画を練った。力自慢の手力男神(タジカラオ)を岩戸の脇に隠れさせ、岩戸の前で天宇受売神(アメノウズメ)が桶を踏みならし踊った。アメノウズメの踊りは神がかりとなり衣服ははだけ乳房があらわになり、陰部まで露出した。見ていた神々は、はやし立て、笑い声は高天原に響き渡った。…また余計なことを考えるが、真っ暗な中、アメノウズメの裸踊りをどうやってみたのだろうか？ ろうそくをともしたのかな？？

この笑い声は岩屋の中まで響き、天照大神は「私がいなくて暗いはずなのに、何が楽しいの？」と岩戸を少し開けた。





アメノウズメは「あなたよりも美しい神が来られました」と言った。フトダマ神が持った鏡を見て

「これが美しい神か？」

もっと近くで見ようと岩戸をあけると、控えていたタジカラオが天照大神を岩戸から引き出し、フトダマが入口に注連縄をはって、天照大神が再び岩屋に戻れないようにした。こうして高天原と葦原中国に再び光が戻ってきた。

強力なタジカラオは岩戸を放り投げた。岩戸は信濃の国の戸隠神社に落ちたという。タジカラオを祭るのは戸

隠山の絶壁の下にある「奥社」だ。戸隠奥社付近のパワーはものすごいらしく、多くの人を訪れている。雪崩の巣の中にあるのだが、社殿が流されることはほとんどない。強力パワーに守られているのだろう。

戸隠奥社はタジカラオ、戸隠中社はオモイカネ、火の御子社にはアメノウズメが祭られている。遠い高千穂の高天原からよくいらしたものだ。神さまだから、テレポーテーションができるので距離は問題にならない。

もうひとつ、フトダマが掲げた鏡だが、これは日本で最初に作られた鏡で、「日前」と名付けられている。アマテラスさまの前に差し出したという意味だろう。その鏡はいま和歌山県の紀州一宮「日前宮(にちぜんぐう)」に祀られている。ちなみに天皇家の三種の神器の「八咫鏡(やたのかがみ)」と同じだという。

◆ところで三種の神器(しんき)とは次の三つで

八咫瓊勾玉は宮中に

八咫鏡は伊勢神宮に

草薙剣は熱田神宮にある。

とされている。

これらは天孫降臨の時に、ニニギ命が天照大神から授けられたもので、日本の歴代天皇が継承してきた宝物だ。伊勢神宮と熱田神宮にある鏡と剣の分身は宮中におかれているが、皇族も天皇もその実物を見たことはない。2013年伊勢神宮の遷宮の時に、宮中から勾玉と剣の分身が持ちだされ、伊勢神宮で三種の神器が合流したそうだ。しかしそれらは箱に入れられているが、姿、形はない、尊い分身があるだけだという。箱の中身は空っぽだということだ。

三種の神器は平家滅亡の時に幼少の安徳天皇とともに海中に沈んだ。しかし箱の中はもともと空っぽだったのだから、箱さえ新調すれば、そこにあることになるので、失う心配ないのだ。ご安心を！

## ■ 4-7 今 高千穂では！

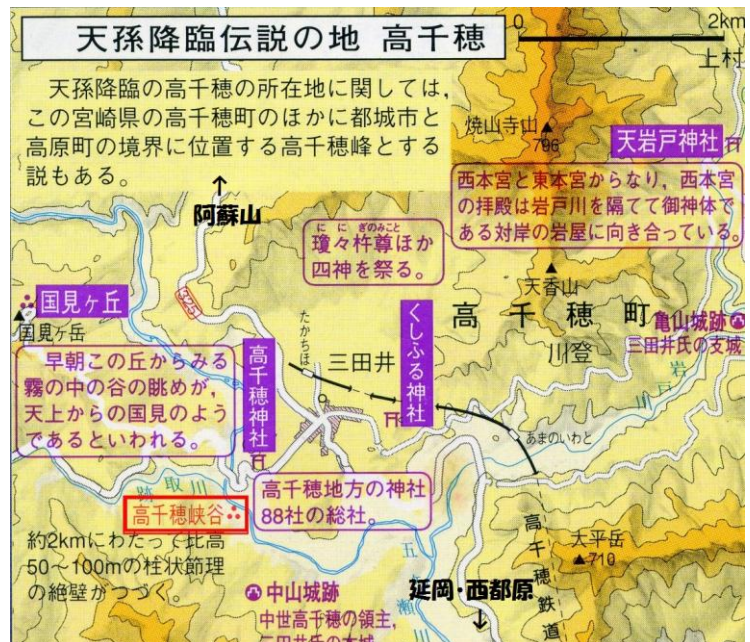
今から 40 年ほど前に私は東京港からフェリーで日向に来て、延岡から五ヶ瀬川をさかのぼり、日之影を通過して高千穂に来たことがある。宿泊費節約のために高千穂鉄道の駅に止めた車の中で寝た覚えがある。いまその駅を探したが、鉄道はすでに廃線になっていた。駅舎とレールは残っているが、線路はもうすっかりさびている。しかし最近「高千穂あまてらす鉄道」として地元出身の方々が復活させようとしている。高千穂駅から天の岩戸駅までのわずかの距離ではあるが時々運行を始めた。これはいい。ぜひ天孫降臨を列車で再現してほしい。天の岩戸駅から天の岩戸神社までは距離は少しあるが、歩いてみると豊かな隠れ里の感じがある。高天原は、梅原先生のいわれる通り、ここでいいかなと感じた。

高千穂の街にもどって神社の祭神を確認する。ここには降臨されたニニギ命から日向三代の神さまと十社明神が祀られている。杉の並木に覆われた石段の参道も美しく、社殿は国の重要文化財に指定される立派なものだ。

祀られている「日向三代」というのは天皇の祖神とその配偶神、すなわち神武天皇の父母、祖父母、その父母であるニニギ命とコノハナサクヤヒメの三代ということだ。

十社大明神は地元に残った神武天皇兄、三毛入野命(ミケヌミこと)とその妻子神たちである。 ⇒

十社の神であるミケヌ命は、ここから常世の国に行った。弟のワカミケヌ(後の神武天皇)は、長兄の五瀬(イツセ)命と一緒に日向をでて大和に東征にでる。梅原猛さんの説では、高千穂を出たあとといったん西都原(さいとぼる)にいったとのこと。日本一たくさんの古墳がある場所である。



## ■ 4-8 スサノオは出雲に降臨する。ニニギ命は日向に降臨する

高天原で乱暴狼藉を働いたスサノオは、追放されて最初は新羅に下り、さらに出雲に向かう。もちろんニニギ命が降臨する前の話で、彼は葦原中国の出雲を平定し、そこを娘婿の大国主命に譲る。

大国主命はさらに領土を広げるが、そこに高天原から使者が来て、元々は高天原のスサノオが拓いた土地なので、高天原に返すように命じた。

どういう訳か、大国主命の息子たちは賛成し、「大きな神殿を建ててくれれば国を譲ってもいい」と、案外簡単に国譲りを承諾して大国主命は姿を消す。息子のコトシロヌシ（事代主命）も船をひっくり返して姿を消す。もう一人の息子のタケミナカタは武力に訴えるが簡単に破れて、越の国に逃走し、母のヌナカワヒメに匿われたあと諏訪湖に姿を消す。後に諏訪大社に祀られる。

大国主命は平和裏に出雲の国を譲り、姿を消した。高天原の神はその場所を譲り受けるために高天原から降臨されると、私は考えていた。しかしなんとなんと、天照大神の孫であるニニギ命は日向の高千穂のくじふる岳に天下った。

古事記の「国譲り」神話のあと、舞台は筑紫の国に日向に移る。なぜ譲られた出雲ではなく筑紫なのか？ これはどう説明したらいいのかわからない。神さまは空間も時間も超越して自由に移動することができるのだろう。

## ■ 4-9 国譲りから天孫降臨へ

高天原にすむ天孫族は混沌の中から国土を作った。その国土は高天原を追われたスサノオが地元の神さまである大国主命と協力して豊かな国に仕上げた。その中心が

出雲であった。出雲が豊かになったのを見て、天照男神は、出雲の国を譲るように強要する。意外に簡単に大国主命は国譲りをする。

◆なぜ「天孫」なのか？

天照大神は最初自分の息子であるオシホミミ命を降臨させようとした。この神さまはスサノオとの「うけひ」で生れた5人兄弟の長兄である。しかし天の浮橋まで行って下界の豊葦原瑞穂の国を見たオシホミミ命



---

は「葦原中国は混乱しているから私は行きたくない。ちょうどニニギが生まれたので、その子をやりましょう」と言って辞退した。

天照大神の系統を「天孫系」という。その理由はこのオシホミ命に原因がある。この神さまが辞退したので、「孫」のニニギ命を行かせたのだ。

ニニギ命以降の神さまは「天照大神の孫」の系統で、「天孫」系と称する。天照大神の息子の正勝オシホミ命が降臨していれば「天子」系となっていたはずだ。しかしなぜ息子ではなく孫を葦原の国の支配者として送り出したのだろうか？

◆この話には次のような尾ひれがついている。

古事記の作者が、時の天皇である持統天皇が、自分の孫をあとつぎの天皇にしたことを正当化するために、細工をした、そんな説もある。古事記の作者のおもねりか、あるいは持統天皇の策略かはわからないが、この時代の天皇系譜とあまりにも似通っている。本来男神であった天照大神も、持統天皇にあやかって「女神」に変身させられたとの説も、かなり有力である。でも私は

天照大神＝箸墓の主＝ヤマトトヒモソヒメ＝ヒミコ

という仮説を実証するために、この旅を行っているので、天照大神は「女神」であると決めている。しかし時々、「天照大神は本当は男神だった！」の説が魅力的だとも思うこともある。

ニニギ命の「ひ孫」が神武天皇である。神武天皇以降日本国は万世一系の天皇制を維持している。昭和天皇までは、天皇さまは天孫系の神さまであった。しかし現天皇は人間天皇であるが、天孫系ということになっている。(この項おわり)

◆大国主命はすでに大和に自分の仲間を置いていたので、出雲を譲っても大過ないと判断した。それに気づいた天照大神は孫のニニギを出雲ではなく大和に降臨させようとしたが、すでに出雲勢力のナガスネヒコが支配を確立していたので、とりあえず筑紫に降臨させ、現地勢力を味方にして、大和に進軍しようと考えたのだろう。

私の推理力はけっこう当たっていると思う。さらに言えば、九州、筑紫の国はスサノオが「うけひ」をしたときに生まれた三女神が祀られている場所だ。そこには高天原系の神さまが多くおられた。神武天皇(もちろん当時は天皇という名はなかった)はまず最初に宇佐八幡に詣でてから瀬戸内海を進むのである。宇佐八幡宮には謎のヒメが祀られている。私はこのヒメは宗像の三女神のひとりであろうと思っている。

ということで、仕方なしに筑紫の国に天下った天孫ニニギ命のあとを追って、次の旅を始めようと思う。今回は筑紫の国、ヒメ巫女がたくさん登場します。お楽しみに！